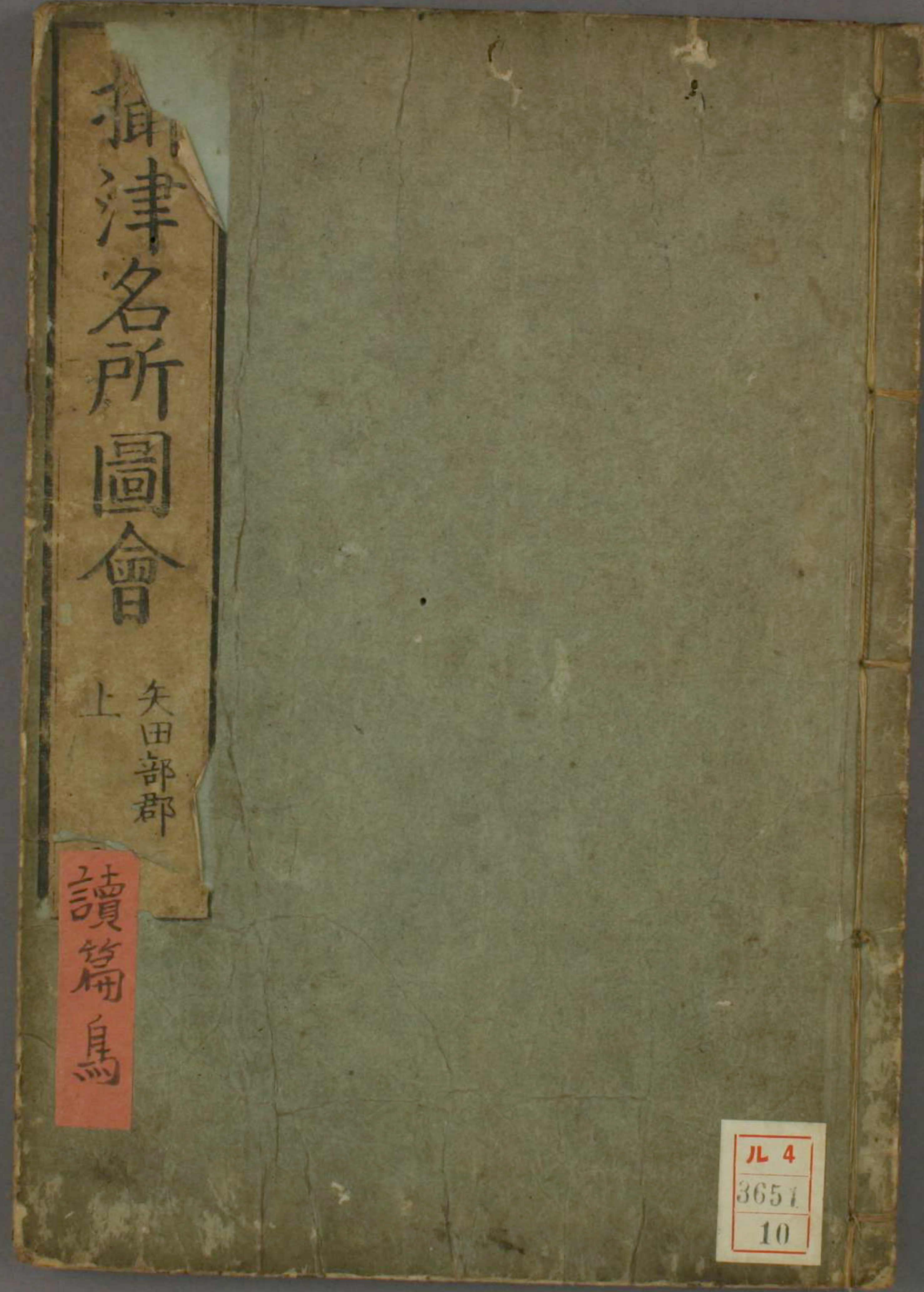
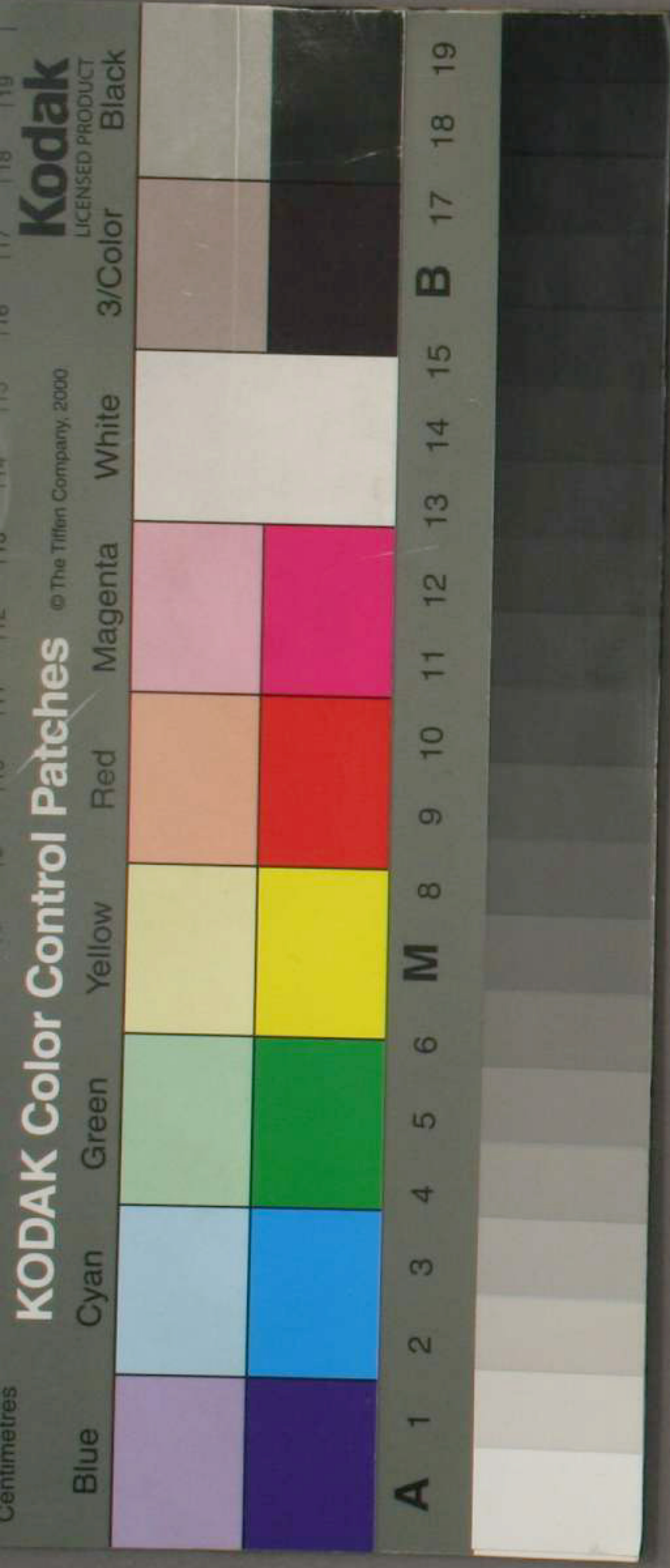




攝津名所圖會

八部郡

生田神社

齋神八景
神樂度

天照太神
煙見洞

籜たけ 梅うめ
 敦あつ 盛も 菰こも
 神

釣掉竹

生く田の海うみ 生く田の里さと

生田杜 生田磯

生田一宮

神戶

馬塚

花隈古城

小
 櫻子
 瀧
 小
 登
 場

中の地蔵

景季

宇治町漢
ちよとこと

廣嚴寺

千鳥舟
八之宮

安徳帝行宮

石井温泉蹟

編者
同

和奇宮
繪馬舍

生田山

生田川

清胤古蹟
生田小野

生田浦
若菜貢

三宮

河原尼女集

再度山人龍寺

興院のりん 行者堂のりやうだう
園伽丹のりやうだん 福祿壽のりやうだん

多々部古城

梶原二度懸所

山路古城

老見亭

六之宮

安養寺

願成寺

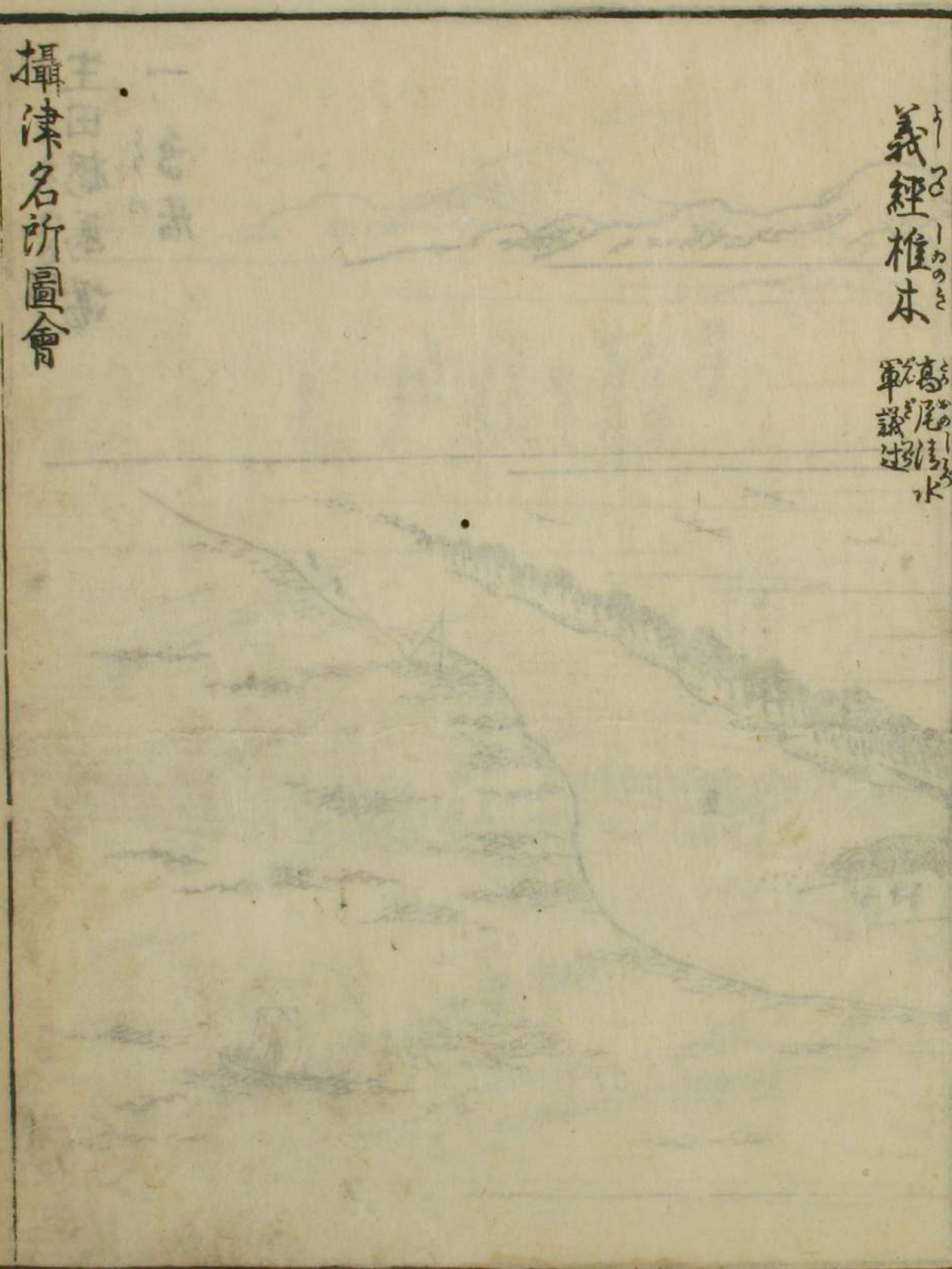
小宰相局墓

昭和廿三年
九月廿二日
賤求

夏野 夏野清水 武庫泊 福原古都
差方家 兵庫津 經基墓 武庫水門
築島 佐比江 和田笠松 七之宮
朱達寺 真福寺 八棟寺蹟 藥仙寺
能福寺 須佐入江 眞御堂趾 福嚴寺
琵琶家 須佐入江 眞御堂趾 二本松宮
千僧寺跡 福海寺 眞御堂趾 喜多風家
自然居士井 兵庫生洲 眞御堂趾 和田神祠
池田城墟 和田入江 眞御堂趾 和田小松原
輪田海 和田三石 眞御堂趾 輪田濟
内裏蹟 延喜山 眞御堂趾

遠矢濱 眞聖里 眞聖浦 眞聖池
荻藻川 眞聖終極 香梅 眞聖橋原
平知章墓 監物太帝墓 通盛墓 木村重章墓
長田里 長田神社 蓮之池 蓮之祠
明泉寺 盛基墓 忠度塚 菅神飛松
淀終極 源氏松 妙法寺 若福寺
神極山禪昌寺 聖靈權現 桂尾山勝福寺 什寶教品
艸賊松 須磨浦 取磨海 遠山松
須磨里 須磨記 松風村雨趾 名倉家
因幡系師 菅之井 頼政系師 重衡松
綱敷之神 菅之井 頼政系師

攝津名所圖會



義經椎本

高尾山
戰談

上野山祥福寺	護國堂	鎮守	神功寺約千竹	義經腰掛石
嫩木櫻	須磨上野	二王門	什寶殿	
芭蕉翁句碑	風月菴似雲趾	後之山	光源氏旧跡	
子母川	村上帝靈蹟	陀窟	須磨園蹟	
一谷	内裏跡	鐘懸松	稻荷祠	
鉢伏山	鴨城	二谷	鐵朽嶺	
火峠	熊谷平山二懸	敦盛石塔	界川	
鏡池	太升畑	松風村雨墓	八幡宮	
丹生山明要寺	田井畑就尾旧屋	宿藏武器	丹生山田莊	
天王祠	十王堂	鎮主	安養寺	
家藏武器	八幡宮	護法祠	丹生谷就尾舊屋	
義經腰掛石	山王祠	大歳祠	八王子祠	
白瀧寺財之祠	栗花落井	第一王子祠	子年屋	
		栗花落氏系		

生田橋馬場
一、馬居



山や文

橋拾ま

秋風小

生田の杜

とつれぬ

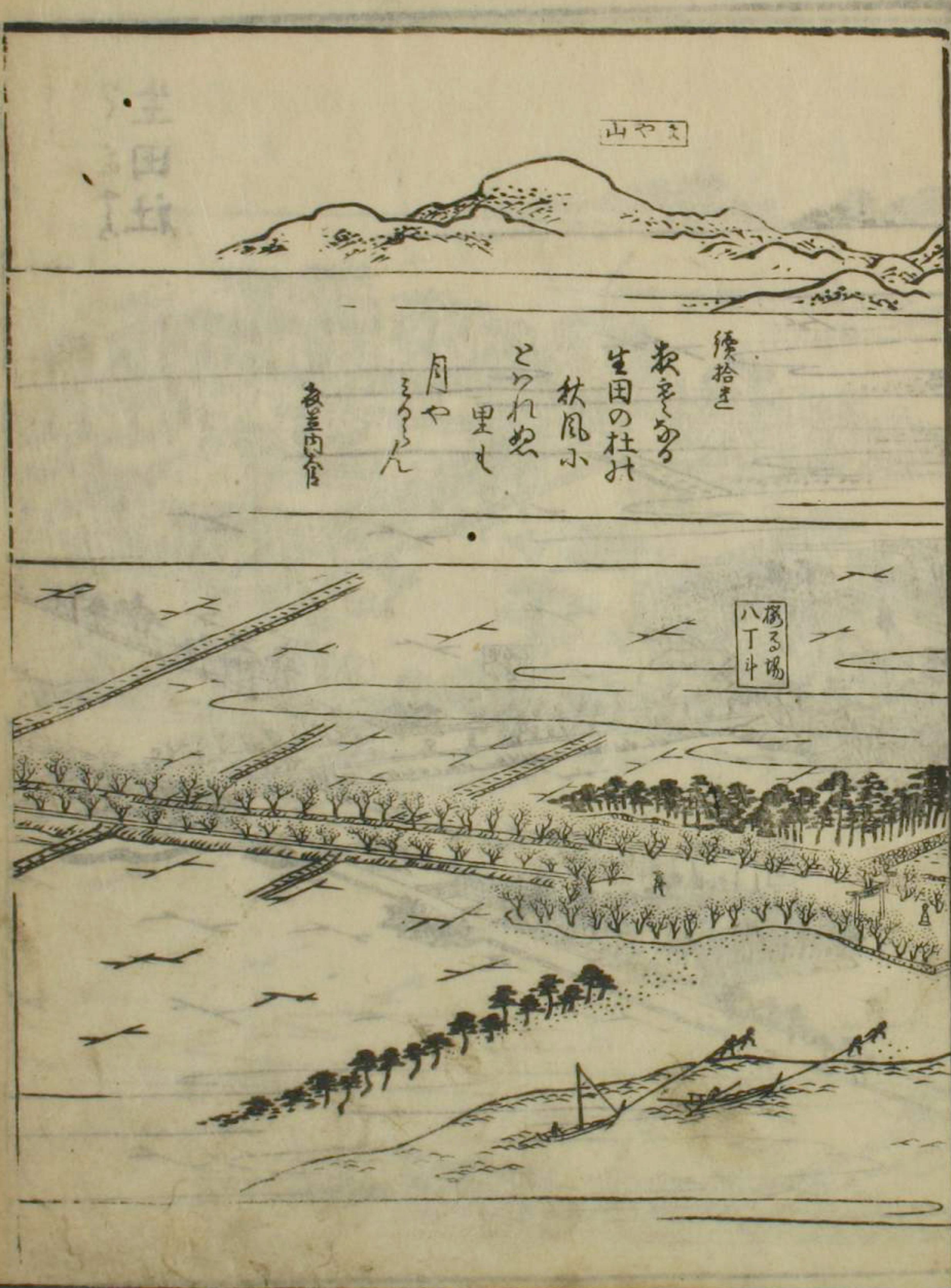
里も

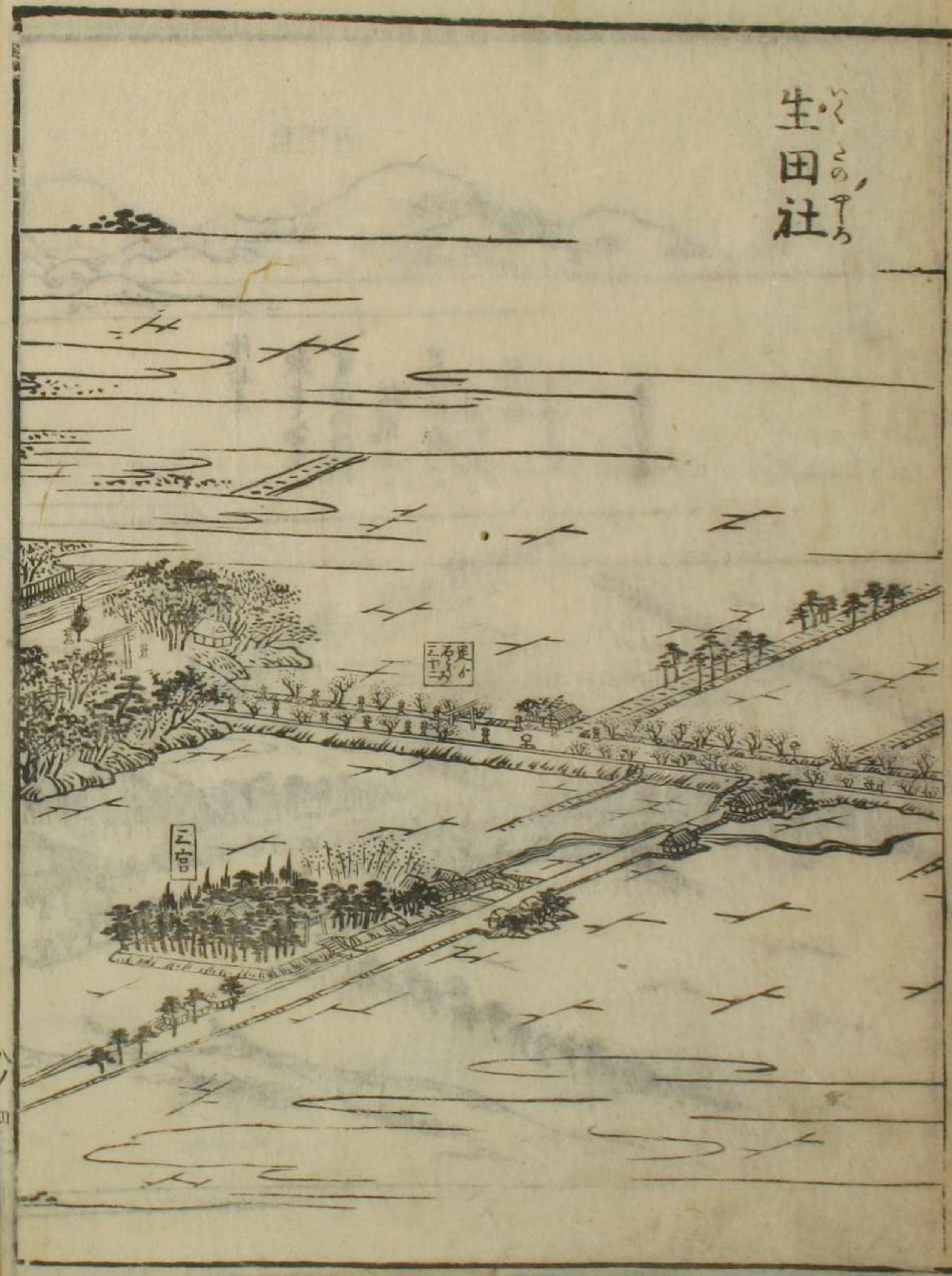
月や

まろん

秋風小

馬居場
八丁





生田部

或ハ生田部トモ書ル東ハ荒原郡の界小至テ海濱小至テ北ハ有馬郡の界小至テ南ハ二郡の界小至テ南ハ海濱小至テ北ハ有馬郡の界小至テ

生田神社 生田宮村小あり 延喜式曰名神大月次相嘗新嘗迎澤止四ノ村 砂山小あり 地名生田長狭國と称ス武庫郡の廣田國乃 從 保年中白川家より村田氏と賜ルあり 俗ハ天照太神の神城と云

攝社 神殿東より第一住吉第二住吉 齋神八尾 威威外小あり 一宮北を村 二宮生田村三宮神戶村

同卷云 推日女尊誨之曰吾欲居活田長狭國因以海上五十狭

從三位云 貞觀元年正月奉授從四位下 同十年二月生田神 加

從三位云

天照太神 本社の東 和奇宮 稲荷の南小

雷太長祠 和奇宮の 神樂殿 中門の外 經子祠 中門の外

存財太祠 中門の外 繪馬殿 西の方 梶原井 中門の外

服梅 中門の外 神功皇后鈎竿竹 繪馬殿の 敦盛萩 中門の外

生田池 社願小 同 生田池の月形に杜の秋風吹手つをけ 後成

日向 日向の田に池あり 神より秋の露と並たり 範宗

月や 活田の池の岸に葉小志も吹く 秋の風と並たり 範光

表の 生田の池にわがわがわが 人の心とやいふ人 為家

はの 園に生田の池にわがわが 人の心とやいふ人 後成

夢れ 社願の海濱と山あり 生田浦生田海活田川

生田社 生田里等の古跡多し 海濱の神燈と表在船乃極と成

万葉集の巻の末に
 山田の浦の磯に
 掛とるけの水母
 とをそめしは
 とゆされとて
 生田の浦の磯に
 と掛とるけの水母
 帝の御時より
 始と七種の中ふ
 終と今も寛永
 群中尾村の人
 御と掛とるけ
 西の浦の磯に
 は遊月とて
 守り



桃溪画

生田
花見
春居
遊真
の圖



秋葉

浦上とて百万の
 軍勢を起し
 雄力の中
 と勝つて
 勝つて
 の師と
 いふなり



反町五



八ノ九

生田 實業一いつ田の杜れ秋風も萩の葉よりや芳きるるん 後成
僧都 生田の衆小南君に 生田の衆小南君に 生田の衆小南君に

生田浦 東に脇侯南に神戸よりを産 後成
立席でぬきていひつりてきり 後成

生田 波あつむ沖のそとをばはふあじ生田の横ふををるるも船 後成
生田 波あつむ沖のそとをばはふあじ生田の横ふををるるも船 後成

生田 波あつむ沖のそとをばはふあじ生田の横ふををるるも船 後成
生田 波あつむ沖のそとをばはふあじ生田の横ふををるるも船 後成

生田小 生田山より海辺 定家

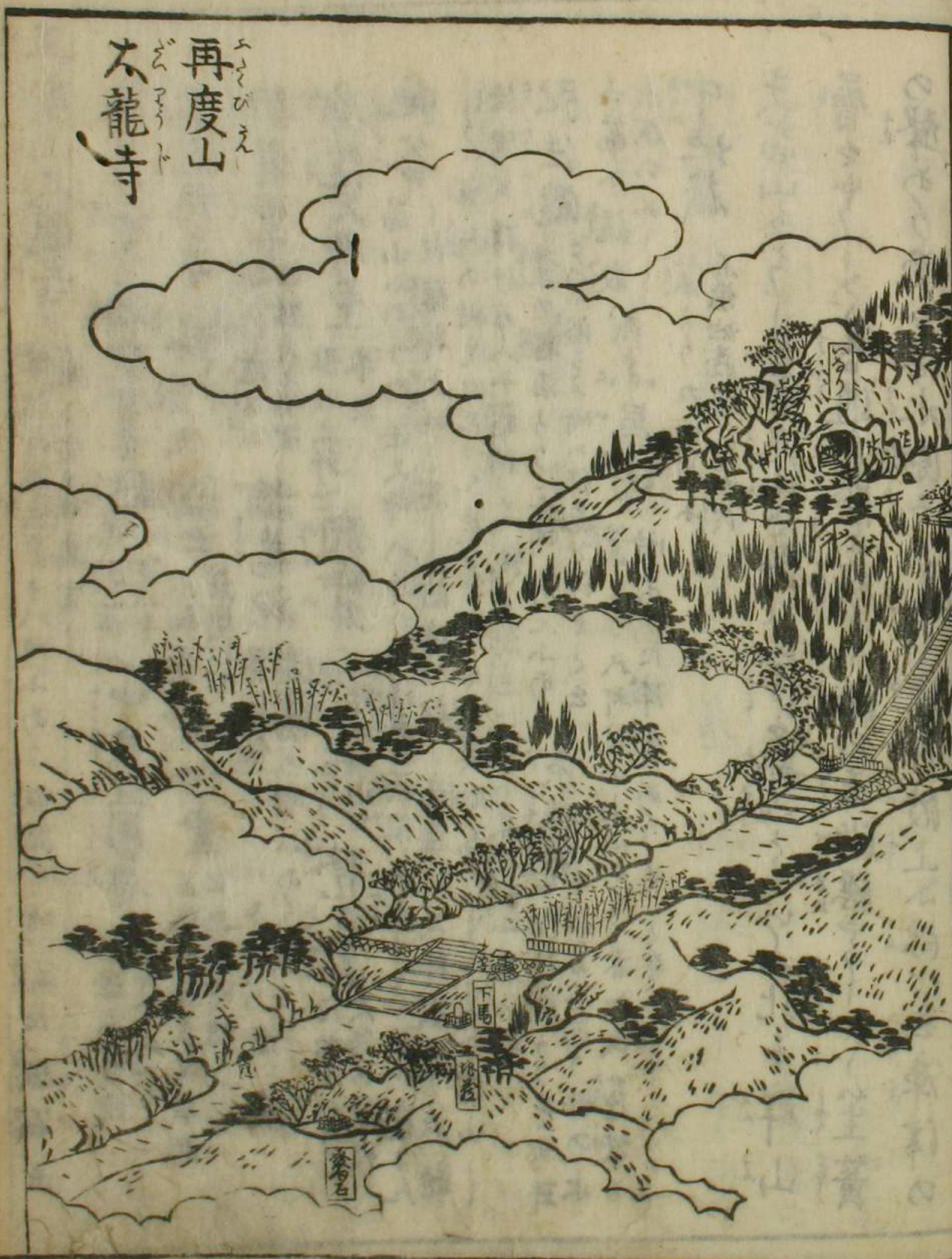
若菜調貞 寛原郡中尾村の人生田浦より 定家
若菜調貞 寛原郡中尾村の人生田浦より 定家

生田 寛原郡中尾村の人生田浦より 定家
生田 寛原郡中尾村の人生田浦より 定家

生田 寛原郡中尾村の人生田浦より 定家
生田 寛原郡中尾村の人生田浦より 定家

生田 寛原郡中尾村の人生田浦より 定家
生田 寛原郡中尾村の人生田浦より 定家

再度山
大龍寺



再度山人龍寺

宇治郡村上方十八町あり坂路を町毎に横断

本尊如意輪觀世音

基菩薩也長三寸八分中若立同尊弘法大師也

若立同尊

小堂也脇士不勒堂石像不勒堂弘法大師也

行者堂

修財主也安次橋本祠岩窟の中あり本堂の側

奥院大師堂

弘法大師也安次園伽斗大師持小梵字石大師の御也

馳谷

山あり弘法大師入唐の時海難を免れ其の守護に大師お法成龍

弘法龍

龍の標石あり之を計上あり東極龍弘法龍上方あり

小屋場

時ありに庫管ありとせ

中地藏

石像地藏あり安次

又富山より摩尼山と號し又多々都山と云ひ北に群山

層々やうく道危険小橋一渡の若洲港やうく坐實

の聲あり南に海水湧くく漢丹波上小浮と云庫津の

泊船驛のり人其風光絶妙あり足とやゆふ半

か一坪寺の由致成園傳つる小神護景雲二年亞相和氣

清磨老僧は爰見て寶珠懷小入ると云ふく如意輪觀世の

聖像を得たり其像は則正し基一鶴三體ありて作所之

精舎と云に建く容と安し摩尼山やゆふあれより聖應

日々彰は延暦甲申の年弘法大師入唐の時初めて堂と

本尊小求法は預ひ其後大同年中意預満足く一修朝

ありく再び堂とあり故小再度山の驛あり大師錫ありて

駐る密法と傳へ澤水は水と歎とる小耳泉忽然やうて

涌出に今の加持水と云ふ又窟中小弥勒弥勒勒文殊菩薩

不勒等の梵字刻に星霜累りく後冠火小遇く諸堂燈

燼と成觀應二年赤松苑に薩摩の跡迹ありく梵字は

新小綿搦に又田園に穀十頃投く寺產に本州名族の

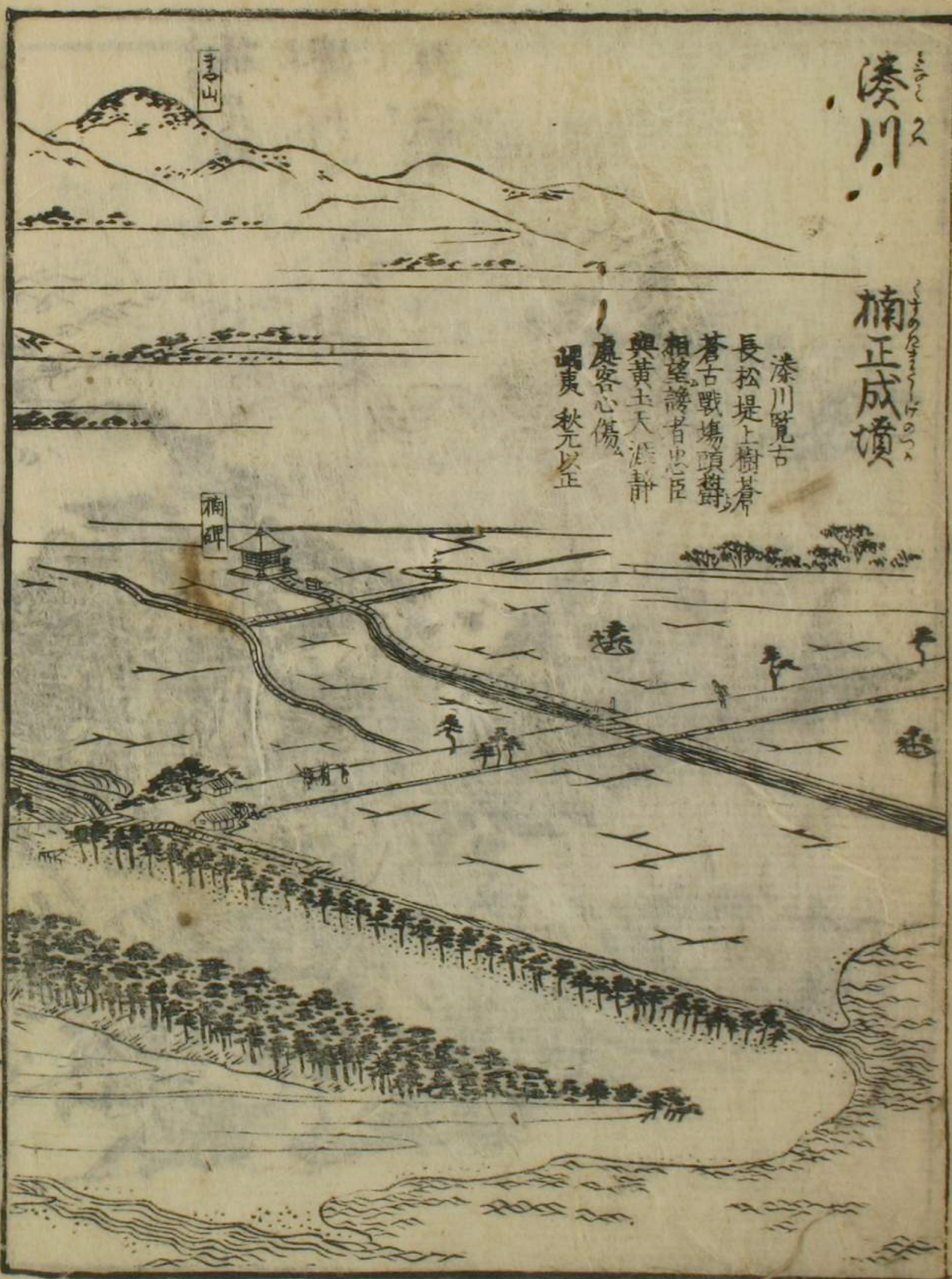
楠足利
湊川
血戦



漆川

楠正成墳

漆川寛古
長松堤上樹蒼
蒼古戰場頭
相望護者忠臣
與黃土天涯靜
處客心傷
烟夷秋元正



山

寺殿

古

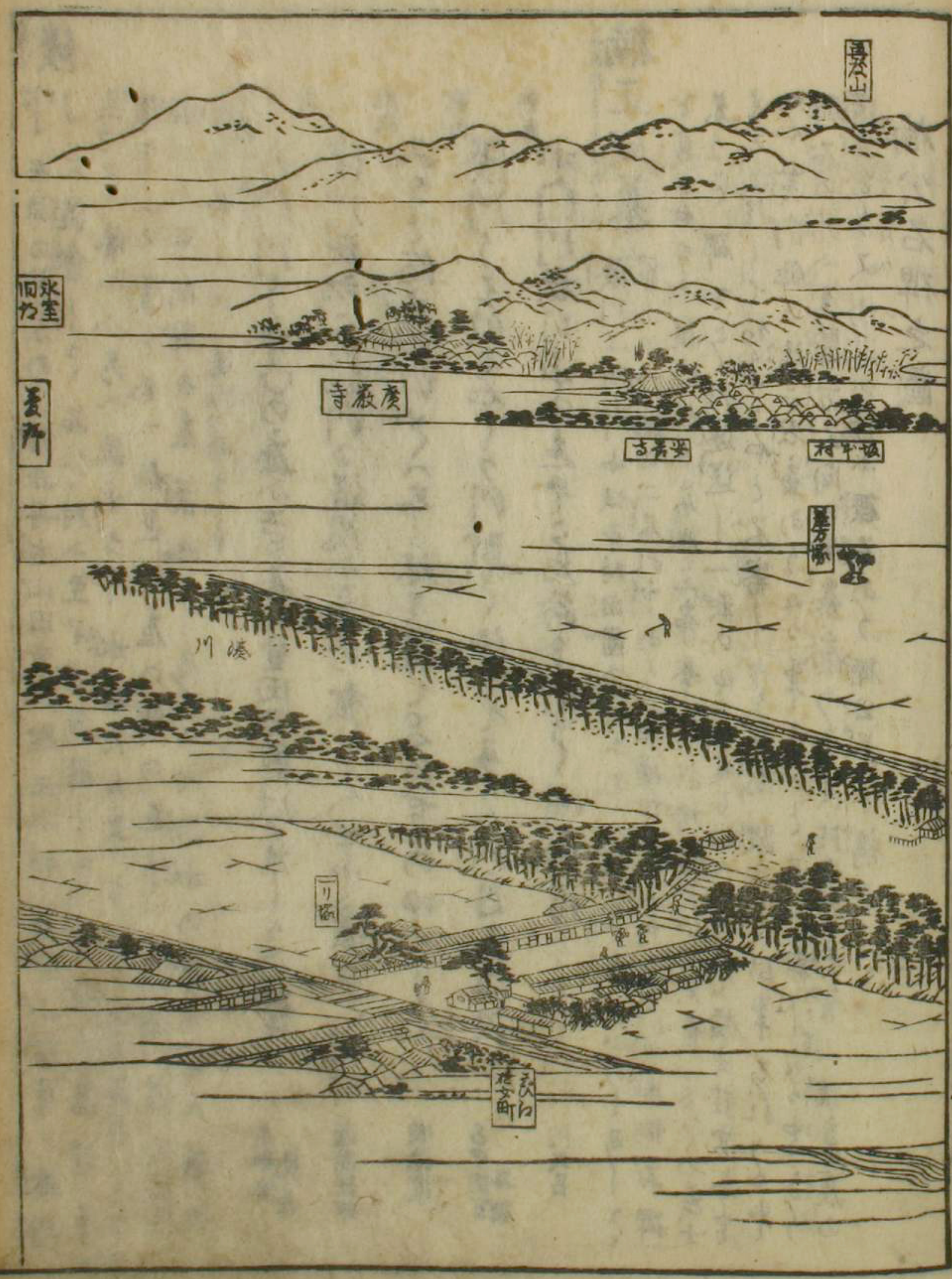
村中

山

川

山

山



水

山

湊川

湊川の北岸のりお源丹生山田東小部西小部藍那小部等の湊川
三流會一く石井村小至下流を湊川
至ッ海入るい流水少く水確に水多し下流を湊川
横下山の麓と西一流を湊川の町の西より大和田湊より
海入平相國を底築造せし頃の時に此の川の源を湊川
今のめく川遠ひありし

千載

水門川よりきのの底ふきとる生田の奥はさへうの聲

玄都卿
範兼

風非

湊川を渡るに舟を乗る風小舟の聲さへせや渡る

道國法師

新拾

みまの河原のりくはる祿を流てまたせのゆりく

順徳院

新拾

湊川を渡るに舟を乗る風小舟の聲さへせや渡る

玄都卿
範兼

新拾

水門川秋り水の色をさへ流てまたせのゆりく

内大臣

楠正成墓

湊川二町計水坂本村田圃の中ふあり初一雄の墓のそあり
家上ふね梅の二本北岸あり元禄四年水戸黄門光園卿石碑
と建させのに従士佐々木助三郎奉終に村老云い時不意ふ多くの武士
ありく碑をこくに運送し一板の中ふ建られくやうと領主莊官あや
もあふたはしてあふたはしてあふたはしてあふたはしてあふたはして
のやあふたはしてあふたはしてあふたはしてあふたはしてあふたはして
碑石の外ふあふたはしてあふたはしてあふたはしてあふたはしてあふたはして
送るより又街道の傍ふあふたはしてあふたはしてあふたはしてあふたはしてあふたはして
楠公石碑之圖

楠公石碑之圖

碑石豎三尺九寸横一尺六寸厚一尺青石也中坦豎二尺五寸

横五尺下坦豎五尺横一丈共白石也龜趺前小向

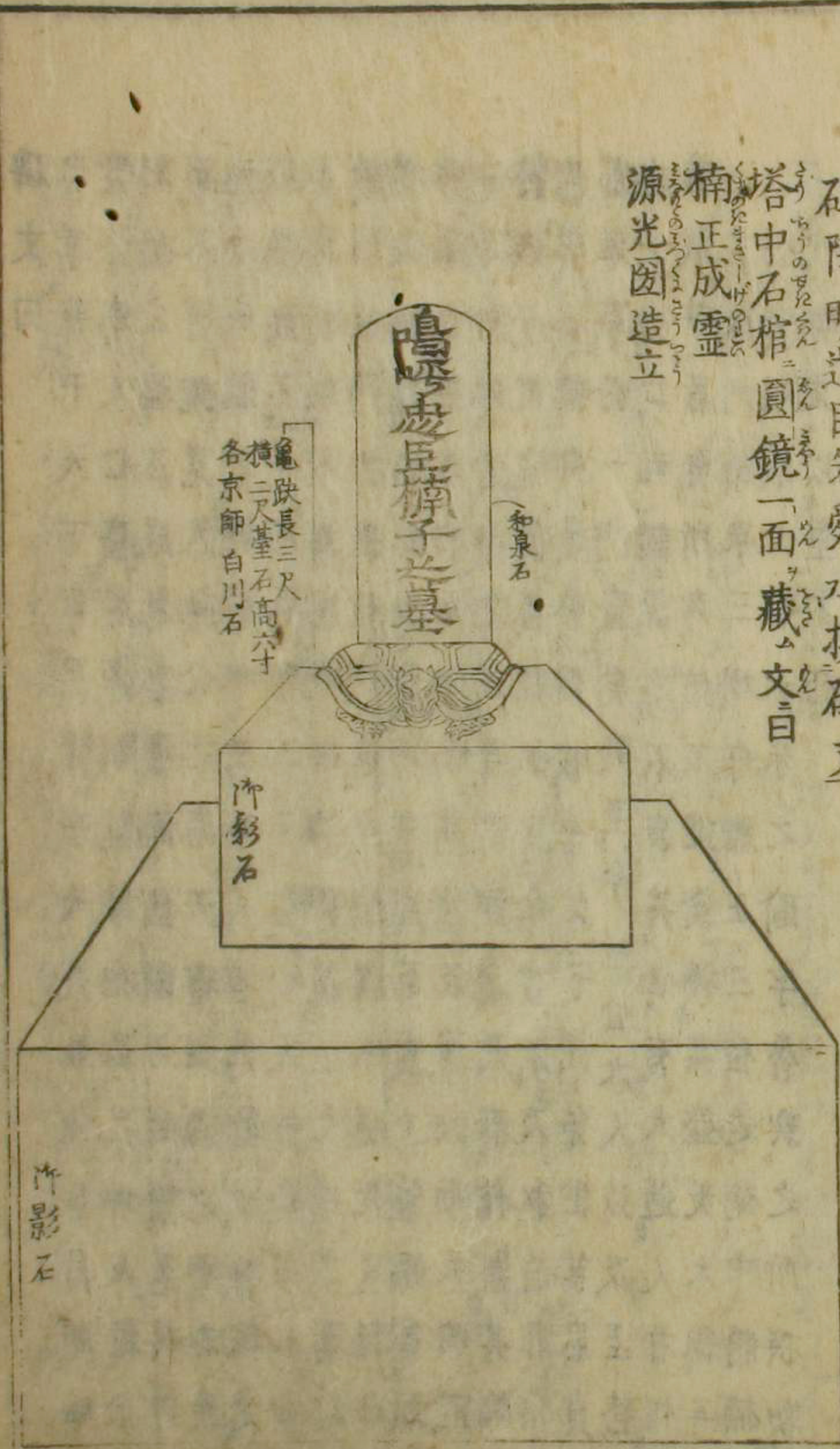
碑面鳴呼忠臣楠子之墓享

碑陰明遺臣朱舜水撰碑文

塔中石棺圓鏡一面藏文曰

楠正成靈

源光園造立



龜趺長三尺
横二尺五寸
各京師白川石

所影石

所影石

碑文曰
忠孝著于天下日月麗乎天
蒙不塞人心廢忠孝則亂賊相尋
事不可概見大成者忠勇節烈
先決成敗之機於呼之知人善任
以謀無不中而戰無不克
諺曰前門拒狼後門拒虎廟謨不臧
構殺自國儲君未移鍾簾功垂廟謨
弗庸自古者卒之元帥前庸臣專
立功於外者卒之元帥前庸臣專
終訓子從容就義而暇乎父子兄弟
忠貫日月能如是整義而暇乎父子
節孝華於一門盛矣哉至今王公大
之士交頌而誦說之不衰其必有
載筆者無所不考信不贈正三位
公資明徵士舜水朱之瑜字魯璵
代碑文以垂不朽

太平記曰

楠判官正成舍弟帶刀正季

遮く津方陣と隔るる今道とあると賢るをいざる先承ある

碑文十行跋文二行都合
字數三百三十字也

敵と一敵一追撲く後口ある敵小戦んと申され正季可然覺候と
同く七百餘騎と前後ふまゝ大勢の中へ入るる馬頭直義の兵
共菊水の旗とてそゝれた敵と思ひ入れ取籠く是成討んと志され
正成正季東より走破く通り北より南へ追籠けられた敵とてんか
とば馳襲く組く落るる首と取合らぬ敵とてんか一太刀あそ
無ちとて正成と正季と七度合く七度分は其心侮ふ馬頭直
附組く討んと思ふあり遂に左馬頭の五十萬騎楠く七百餘騎ふ
無難けらるる又須磨の上野の方より入るる直義親臣の素
られたる馬と尻と蹄と踏きて右の足と引る同楠が勢ふ追攻
らして已ふ討と給ぬと見るるまふ薬師寺十市次郎只一騎連
泳の堤よりとて合て馬より飛て下り二尺又寸の小長刀の石はた
と取逐て懸る敵の馬の平頸胸のひのり也切て大倒々々七八騎
ふ程切て落るる其間直義の馬成素替く追々落延ひ給るる

所相着のり、勅向小曰、棧山航海得々来和尚、以何度生、禪師答
 曰、以佛法緊要處度生。重て曰、正當恁麼時、如何答曰、天上有星
 皆拱北、人間無水不朝東。所法遂畢、禪師お揮して退出せし所
 翌日別當實世卿と勅使、禪師賜る時、禪師勅使に
 向て、君元龍の悔ありと、二帝位を踐せり、と所相あり
 とぞ申され、太平記ふり、又寺説曰、楠の一族十二人、太平
 六十餘人、い寺ふ入、建武三年八月、自戦死に、禪師即遺骸を路傍
 小葬所今の墓碑の地、平堂と瑠璃殿と楠に楠と引導の所、ふ
 ようく甲冑の像衣冠の教相共、佛殿ふ安次、痛極左右の聯板ふ
 高しと曰、岡山佛日、楠惠禪師、明極和尚、示叔建武三年九月廿七日
楠正成戦死、建武三年八月廿五日、四十二歳
當寺什室、楠の碑表、建武の附、山和尚、小關人、美門、洗園卿の所を、ふり、
正成、前村の、軍配、圖、扇、采、幣、串、ふ、楠と、真、影の、書、銘、あり、
其、文、曰、
 の、世、終、つて、
 世、度、年、人、多、り、事、紀、あ、事、業、最、後、と、

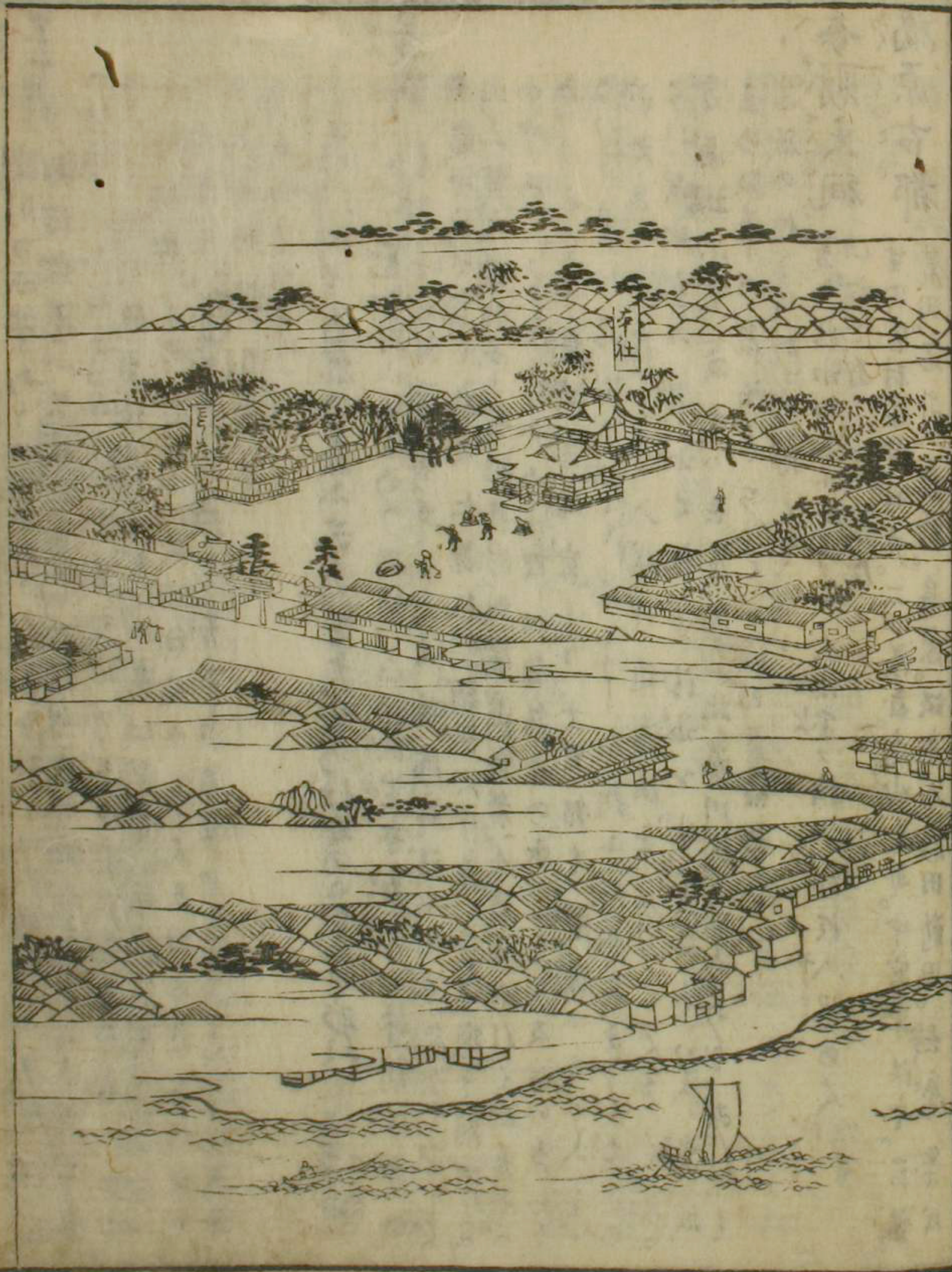
義重より更難造、は勸学を志せし、後
 然人中、てを、あ、は、

建武三年 同冬

楠正成の事

八之宮六之宮 共小坂村あり、生田、齋神、八条の内、之、所、の、生、土、神、と、
六、宮、ハ、今、幸、神、祠、と、稱、し、側、の、祝、若、堂、あり、
 安善寺 坂村あり、大、山、と、号、初、ハ、尾、勝、あり、其、領、主、青、山、大、膳、亮、
法、禪、道、二、の、菩、提、所、今、小、坂、内、小、道、三、居、士、の、塔、あり、
 安徳天皇行宮 荒田村あり、原、ハ、池、大、納、言、觀、盛、の、領、地、あり、山、莊、あり、
橋、系、遷、都、の、時、瑞、き、に、幸、あり、假、皇、居、と、い、ふ、
 石井温泉古墟 石井村あり、昔、ハ、所、温、泉、あり、其、由、縁、の、一、章、と、
氏、家、ハ、新、村、あり、
 願成寺 住、蓮、坂、馬、原、村、あり、法、然、上、人、の、所、實、子、住、蓮、坊、と、に、
平、通、盛、卿、夫、婦、の、菩、提、と、予、り、所、と、
 小宰相局塔 境内あり、通盛卿の室あり、衣、系、刑、部、卿、龍、賢、乃、
好、ハ、通、盛、一、谷、あり、親、皇、乃、ハ、終、り、嘉、永、
 二年二月十四日、仲みく、船より、舟と、殿、空、く、あり、
 其、由、縁、の、住、蓮、坊、ハ、石、井、通、盛、主、母、の、所、實、子、ハ、塔、ハ、遊、轉、し、
 所、あり、ハ、塔、ハ、住、蓮、坂、と、
 今、小、坂、ハ、呼、び、ら、れ、





兵庫
七宮

源一石

つゝ八坂一

一定子

斑峠

大坂
海
の
浜
の
あ
た
り
の
こ

佐北江
縣亭の窟
上方より入口
今三張をあら

若狭守經基墓
佐比内稻の小畠あり
小畠稻畠あり
平相國貴政

如實の足なり
盛の足なり
無官太夫
地方の生土林と云
明宗三月廿日

七宮神社 別當神宮寺
祭神 大己貴命 おほおのりひのミコト
社説云 此神ふ七名あるゆへ七宮の神姫といふとて

末社 稻荷 八幡 天照太神
秋葉權現 成金
庚申祠 神樂藏
側小町

經寫山來迎寺
澤上宗西山派
本尊阿彌陀佛
裏心傍都の化

鳥共いづ哀あは多おほ尊そと畢は弗ふ天あま生なま橋はし曇くも跡あと徒た人ひと頭かぶのの黒くろ髪かみととりりののくくのの髪かみのの

山竹（？） 弘法大師の
 存財天（？） 平清盛鏡（？）
 年五十四歳の時みづろ画さ

松王小兜像
 人柱と感一対十七文の像
 梅實伽藍彫刻
 小南寺
 右伽藍の圖と刻り
 見
 本堂の
 眞実
 編着
 祠

其外什宝多
地藏堂 鎮当小
松王 八板中石
本堂内あり

丈嵩寺ハ應保年中松王小児ハ訪ふ人程中一々海産に

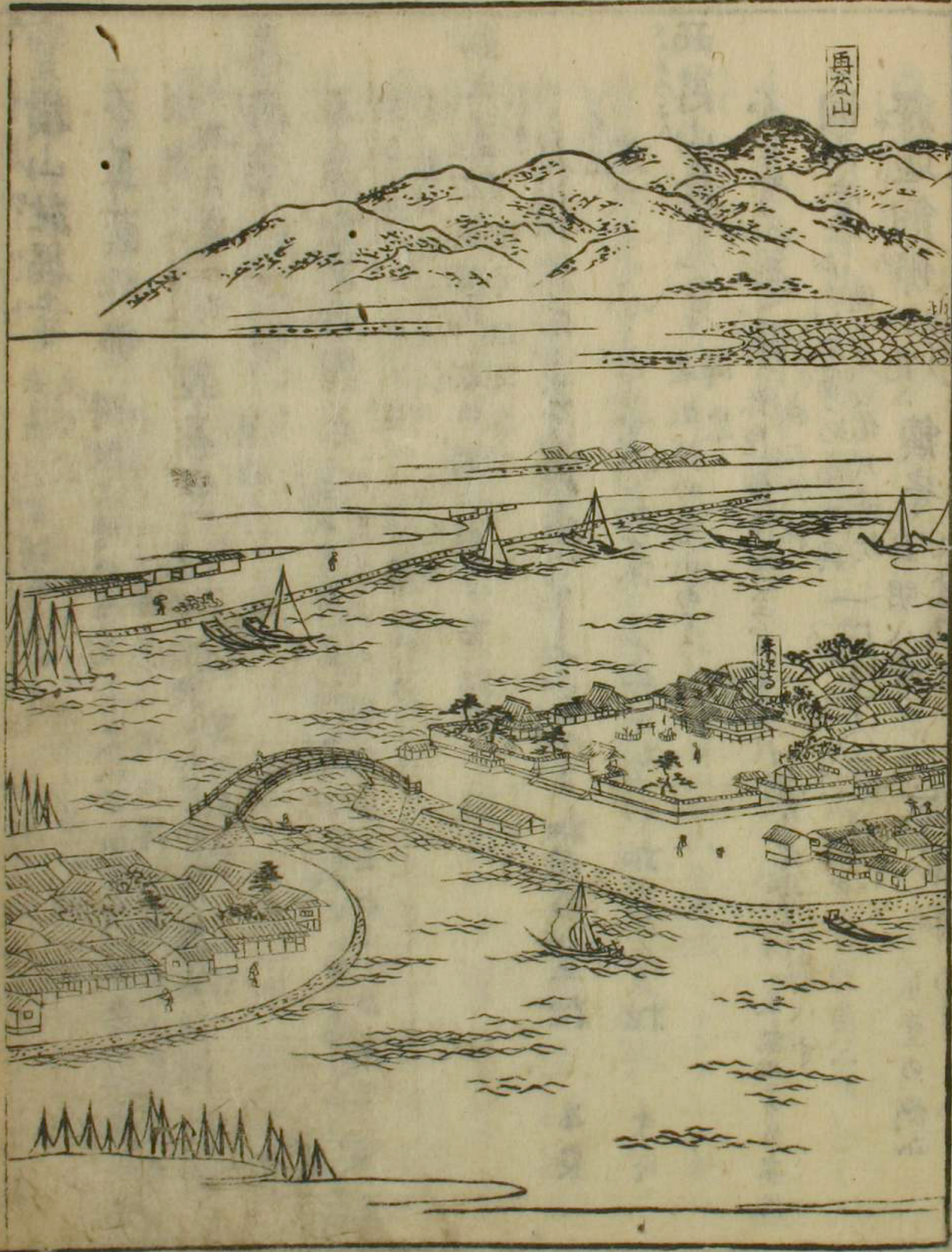
論漫一遠不無勝成然其内勝供書子鹿山の類如上人
 子傍依集め妙典と稱し々ふ神極山の嶺よりい東まの

ふん 隠 七 聖 衆 奉 樂 伎 奏 其 中 小 松 王 如 意 胸 觀 者

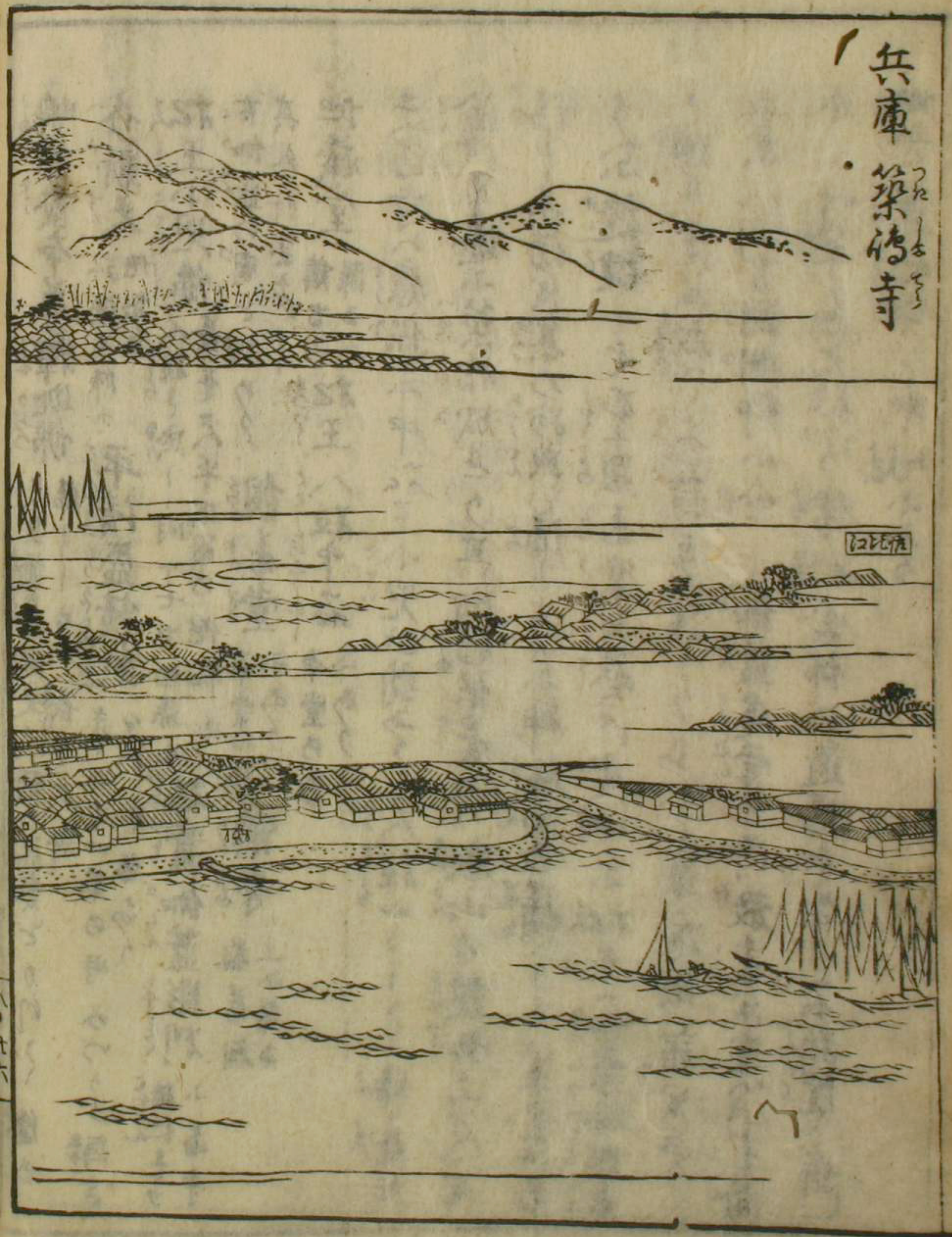
と現是先放く奇特のきひ源くくし心を平振匪詭秘受く
 五条大納言國圓卿ふ令め加藍達營がらんたんえいの市いち敷け者もの出で次つぎに書簡しよかん

今ふ什室しじふと云ふ所より常とくに念佛の道場とあり不斷ふだん院ゐんと云ふ

世之築傳寺之無暇小者



西武山



兵庫築港寺

江比路

寶積山能福寺

去處 逆瀬川町ふあり

本尊藥師佛

傳教大師の他長き尺八寸は大師延暦廿四年六月
唐土より帰朝の時比摩小室宿し中い南寺と

中興長盛和尚

親善堂

本堂の側ふあり十の親善安堂に
初ハ興南堂の本あることと

直福寺

日町ふあり 兼宿寺

本尊如意輪觀音

長六寸許 逆瀬川石山寺 試の本尊といふ小松
内大臣親盛卿の建立なり白拍子紙王

奴女 常くく小位く平家一門の

和国堂

逆瀬川の側ふあり古松も

秋風の吹来る家の村をふうて宿する和国の堂松

本末をわきまの紅葉して移るや和国の堂松

西月山真光寺

逆瀬川の南ふあり

本尊二尊佛

弥陀觀音寄至安堂に

親善堂

十一尺親善安堂に

開山堂

一過上人の傍安堂

一遍上人廟塔

本堂の南ふ

釋迦銅佛

門内ふ

鎮守

神明八幡社

稲荷祠

本堂の側ふ

當寺

仁明帝の御宇沙門惠尊入唐して宋王に謁し

大悲の尊像を授け既ふ帰帆の時風波穩やしく日歩あり次

しく當津和国津傍ふ至るあふ松く櫓櫓とめぐるせとも素船

揺に惠尊思惟してあは則大悲有縁の靈地としく遂に

當院と建立して親世安堂に建治二年相別為澤の元祖

知真一遍上人あふ止後して中興開祖とあふ知真の傍別河

通廣の子建長年中薙髮して慈母權現の示現を蒙り光

勝のひを蒙り念佛をめぐ四衆を化す六十万人受定信生の

れと弘め勅を蒙り日本六十餘別と巡國に正應二年八月廿二日當

寺ふ松く遷化次 年八十 又元禄八年八月十一日四世の遊行上人

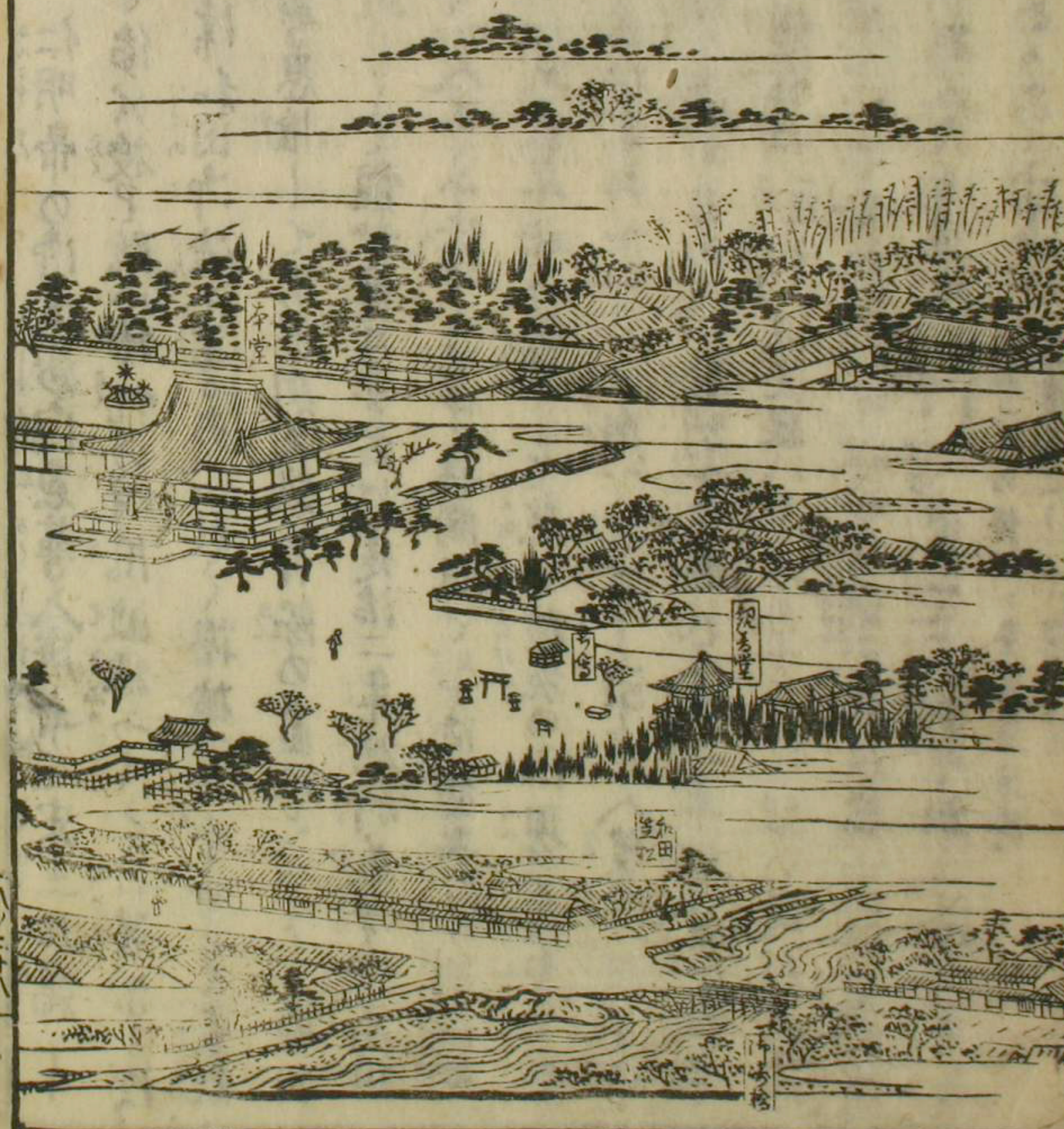
尊通も當院ふ松く寂次 年七十 中祖上人の側ふ蔭傍當山ふ什室あり

菅井自畫影人丸自畫像 定家卿の 紫雲名所中祖上人のあふ

其外数々ありあふ小畧を 一遍上人の傳記に東海通名所

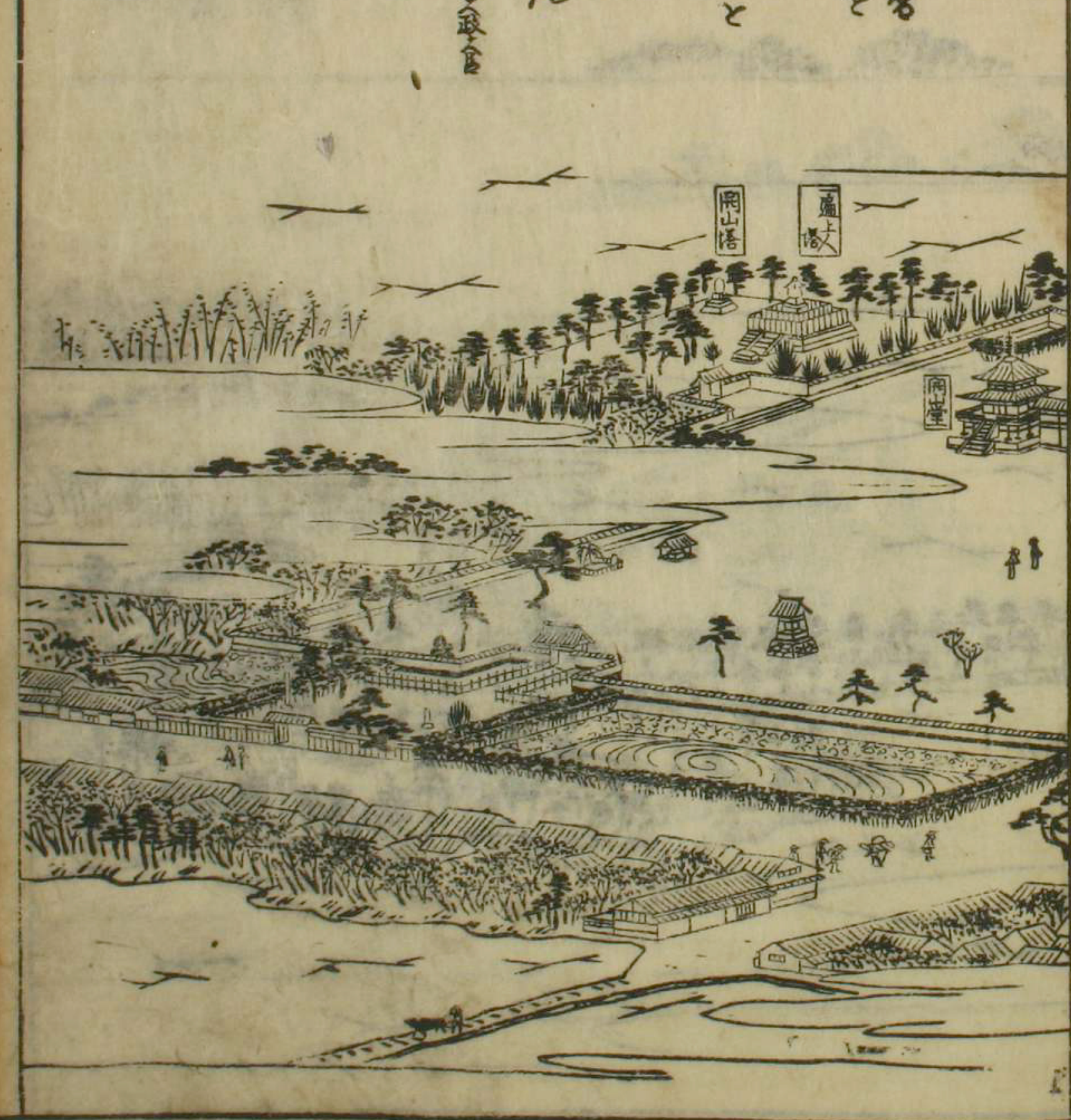
圖會ふふしくくく

兵庫
真光寺
和田笠松
御膳橋



新宮
み智心所親家智
といふ事と

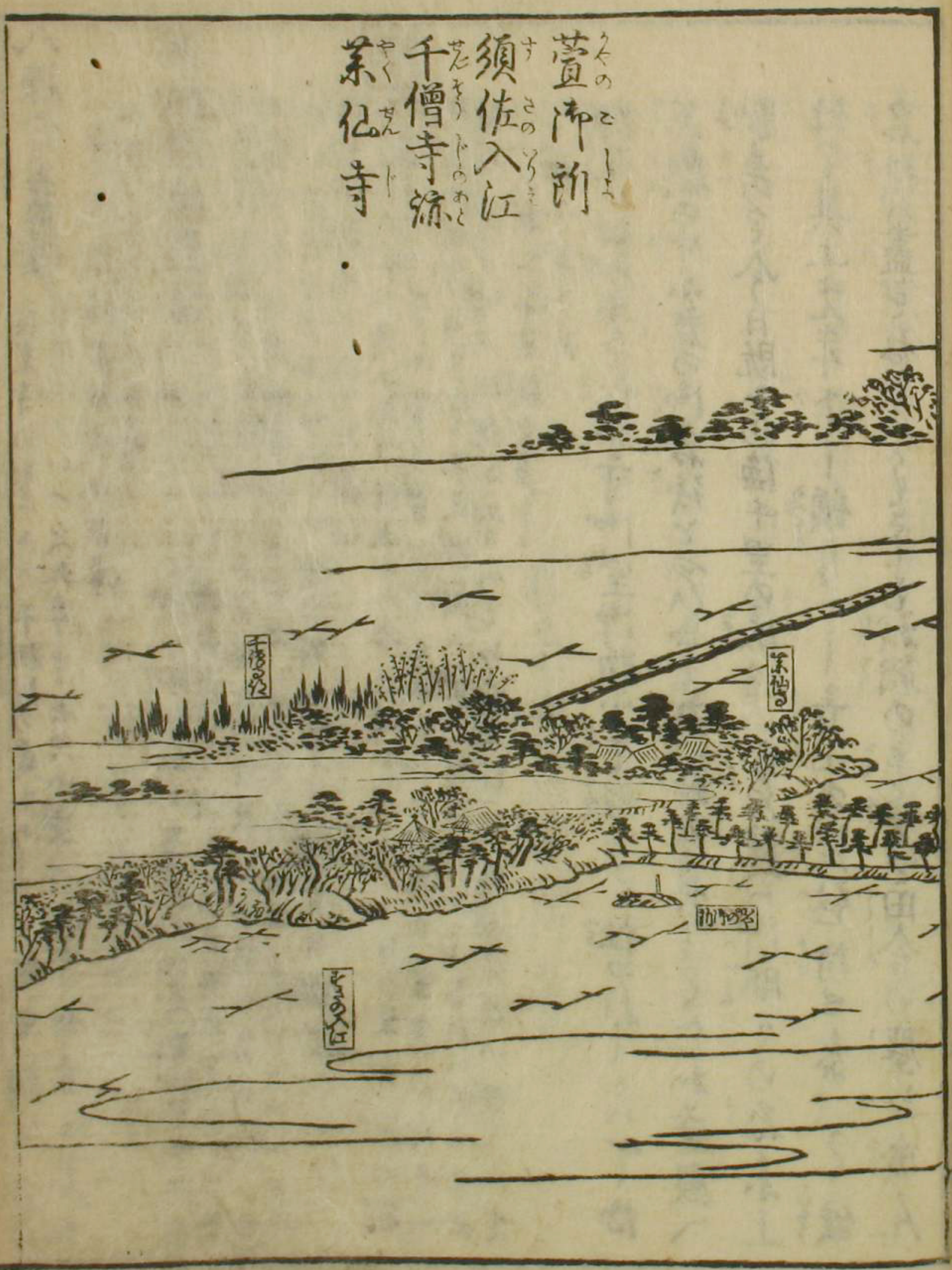
座落く
あつろの水と
こぼるすい
いうけりうの
そちとと
んん
八通花園自金倉



八棟寺旧蹟
 平相國清盛塔
 平經政琵琶場



萱沛所
 須佐入江
 千僧寺跡
 兼仙寺



八棟寺舊蹟

眞光寺の南あり平相國の建立あり諸堂魏々として
太平山といふ天正年中火災燬れ元亨釋書云景安

平相國清盛塔

日新あり十三層の石塔婆之爲式丈六尺勒曰弘安九年
二月之三日清盛薨せられ後百餘年と云く北條
七代最勝園寺平貞時此石塔婆を造立次本朝編年集成二曰仁安
二年十一月清盛薨法名海海實和元年閏二月四日西八條第に
於て薨去せられ年六十四翌日煙とて一遺骨成圓實法眼なり

經政琵琶家

日新あり經政一谷合我討死しけり由縁の首
經盛の嫡男あり太主經盛の兄琵琶のめあれたる家の名
琵琶家といふ所ふ青山といふ琵琶と經政と共小連しや
若取小連しや

經政の幼少より仁和寺淨室淨所小形なり仕られしや

總劇の中ふ君の淨名残とていふ一五六騎召具し仁和寺殿へ

馳参り今日既ふ西海千里の浪路ふ新に候へ淨所をのる系上

仕り其上先年下し領なり青山の琵琶持せ参り候

名残の盡き存せられしや我朝の市實と田舎の塵に成ん

半は惜り候へる系せ是候へる不思議の運命啓けり都へ

帰る半はしや其時を市下し領なりと申されし御室に

哀ふ思ひし一首の淨所とていふ下されたり

あるとして別る君の名残とて後の形見ふつみとて

經正の淨所とていふ

其竹の簀のわかれも程とてあめ宮の内より耶

叔經正淨所成はうりゆれりふ教案の形出世者坊官侍士傍侶

ふ至るに經正の名残と惜しむり涙と流し經正濡ぬかうり

中ふも幼少の時小師より坐せし大納言法下り慶とて茶室へ飛言

光頼卿の浄子に餘ふ名残と惜しむる桂河の端よりお送る

信り帰らるる法下り思ひ續けりや

哀とて若本若本も山姥とて先づちたる残らりト

經正の浄所

經正の浄所

旅衣よくし被衣やうきと思へ我の遠くりあん
さて寒く持せざる赤旗颯と揺揚られあそこ愛小扣侍を侍共
わんやと馳集る具勢百勝計鞭と上駒と早うく程かくり幸
小返付も所押青山と申所琵琶の終正十七条の時宇佐の勅使と
兼うたられる其時青山と給く宇佐へ参り所殿より秘曲を彈
しゆひく供の官人推並く緑衣の袖とそ紋々い青山と申所琵琶
ハ昔仁明帝の時宇嘉祥二年二月掃部頭貞敏渡唐の時中
の琵琶の將士康安まふまふ二曲と傳く帰朝せし其時玄象獅子
凡青山二面の琵琶と相傳へて渡りたる龍神や惜々ん浪風あうく
まわれ獅子凡と海座ふ沈めぬ今二面の琵琶と渡り吾朝の
所門の時寶と村上聖代應和のほひい五歌中の新月の色清く
涼風颯々うーね半ふ帝清涼殿より玄象とそ遊されけり
時ふ影の如くある者所希ふ希とて優ふ氣をた聲とて唱歌と目度

はる帝時く所琵琶と聞せぬいけい如何ある者をわくううふふと
と傳せられを参り我いあれ首貞敏の二曲と傳ひい一唐の琵琶の將士
康安まふと申者う候二曲の中ふ秘曲と二曲残る罪ふく今
魔道ふ沈淪はる今青君の時撥る妙小園ゆる間希内はるまなり
願ひ曲と君ふ授けなうく御果成得んく青山と取傳ふは捨く
秘曲と授る二曲の中ふ上ま右とこれ其後君も思ふを給く
遊彈しぬふまもかううと仁和寺所室所所へ参りて給ううふは
終正下給へとや甲い紫藤の甲夏山の雲れ緑樹の木同より有明の
月のやると撥面ふきれりる故ふあせ青山とい名付れける
須佐入江
琵琶源のむかひ今いみか田園とる萬葉集未考園
万葉
あられむ次沙の入江とるあめあめいさうもはかあて
あられむ次沙の入江とるあめあめいさうもはかあて
後古
い奇類字わふ集ふ抄傳とあり契沖の吐懷編小難しと日あれ万葉集十にふふあちの
そむすこの入江とる用らる園末効あれとふふあれは抄傳ふあうは云

庚子

衣をきてすこの入にふりてあまの氷の月にかへて
見ざるに渚沙の入にふりてあまの氷の月にかへて

菅御所旧蹟

清盛塔の南田の中ふ石標ありむかし延和二年正相國別荘乃
後白河法皇成押籠より又樓中ありむかし相傳つて延和四年七月
十日日文貴法皇成押籠より又樓中ありむかし相傳つて延和四年七月
院宣日 延和四年七月十日

項年以臨平氏蔑如王化無憚政道欲破滅佛法乱王法夫
我國神國也宗廟相並神德惟新故朝廷固基後數千
餘歲間欲願帝位危國家者皆無不以敗北然則且仕神道
之冥助且守勅宣之旨趣早亡平氏一類退朝家悲歎繼諸
代相傳兵略抽果祖奉之志勸可立身興家者院宣如此
仍執達如件

治承四年七月十日

前右兵衛督光能

謹上

前右兵衛佐殿

藥仙寺

清盛塔より南に丁字の形あり醫王山と号し時宗坊舎七宇
初ハ天平年中ハり基菩薩の廟基也

本尊阿弥陀佛

聖德太子の御作
長三尺八寸

觀音堂

本堂の後ハありむかし聖武天皇御宇金乃を光
六寸の尊像安坐其後不初る觀音の二尊と初観音
の觀音記二卷ハ持來せり老翁忽然中より方ハ即是之
觀音の應驗之とぞ人々ハけり

為院建武年中

後醍醐帝隱岐國より還幸の時時不憐
ゆゑにふりていさふとていさふとていさふとていさふとて

平家念おつちを因茲藥仙寺の跡を賜ふ

殿后延文中京師
靈山國阿上人あふ恒一時宗と改め

千僧寺旧跡

藥仙寺の南ふあり古縁今を座津の三時とありむかし
正徳名義集曰義元年中法然上人預別下向の時寺ハ阿弥

千僧寺旧跡

藥仙寺の南ふあり古縁今を座津の三時とありむかし
正徳名義集曰義元年中法然上人預別下向の時寺ハ阿弥

[illegible]

去春の生開へ今
 左衛門の演ふり
 為小諸奥と生く
 湯気の付不便の
 用く 禁裏時
 潤貢もあさとり
 持ふ年多し



挑漢画



自然居士井

福海寺の隣に建ち、自然居士の墓あり。此の地、

大光山福海禪寺

禪宗祖師の墓あり。寺の境内、

本尊釋迦佛

佛殿に安置し、運慶の作。像高、

開基在菴圓有和尚

建武年中、將軍尊氏に就いて、開基の事あり。和尚、

佛鑑嫡裔元菴真孫

佛鑑嫡裔、元菴真孫、掃除、枝葉、廊、徹、根源、

満福寺

満福寺、二代の上人、開基あり。寺の境内、

本尊阿彌陀佛

運慶の作、又、什寶、小菩薩、の神あり。善守忠盛、

二本松營

二本松營、源義興の墓あり。寺の境内、

池田城跡

池田城跡、守備の時、花隈城と號し、其跡、石垣あり。又、

兵庫生洲

兵庫生洲、團上、雨、露、の痕あり。寺の境内、

魚市

魚市、海濱、官の所あり。寺の境内、

喜多風家

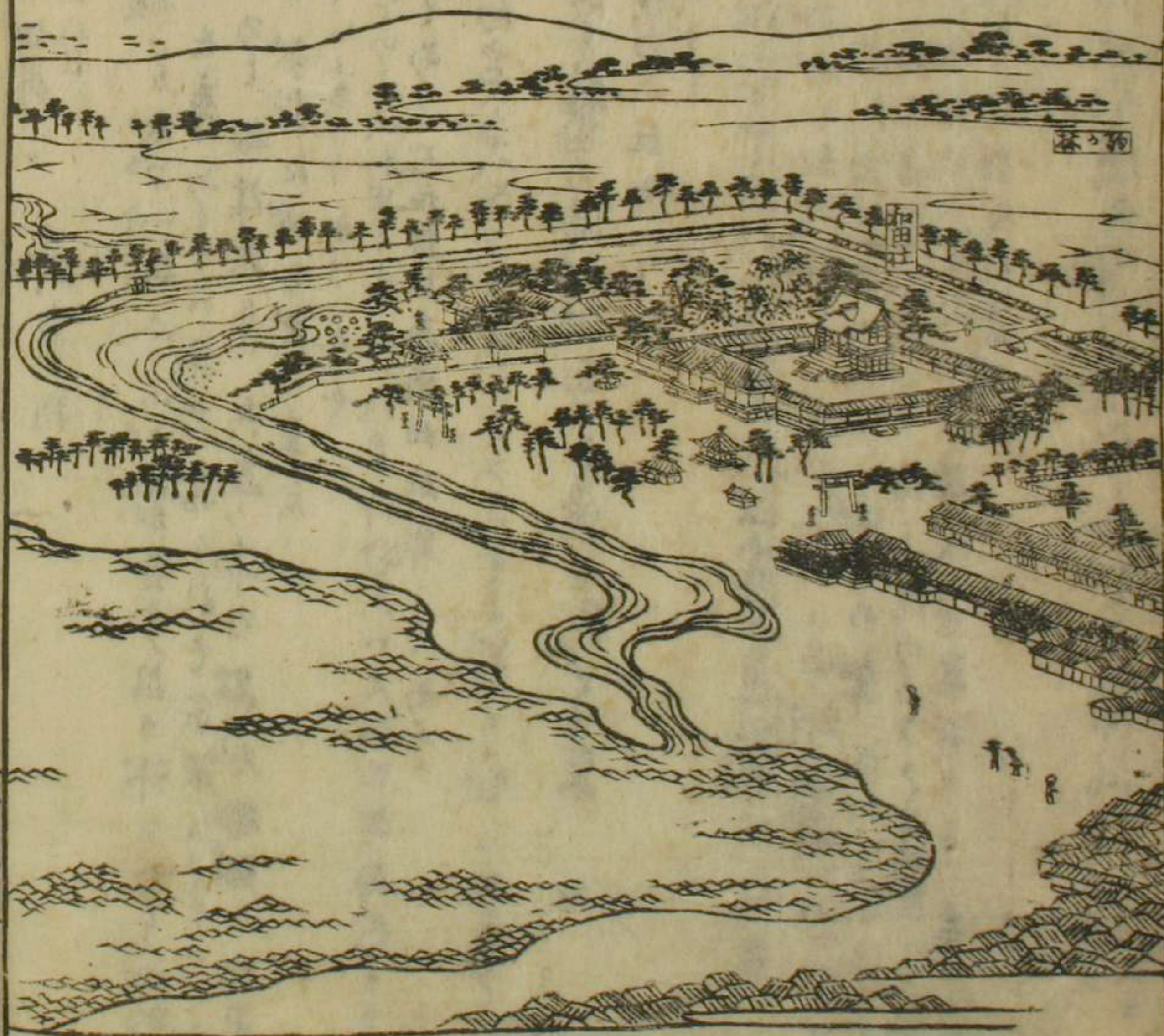
喜多風家、家名、一、千、五、百、年、も、相、續、と、い、ふ、

神功皇后、三韓、征伐、の時、は、浦、小、津、に、お、り、て、

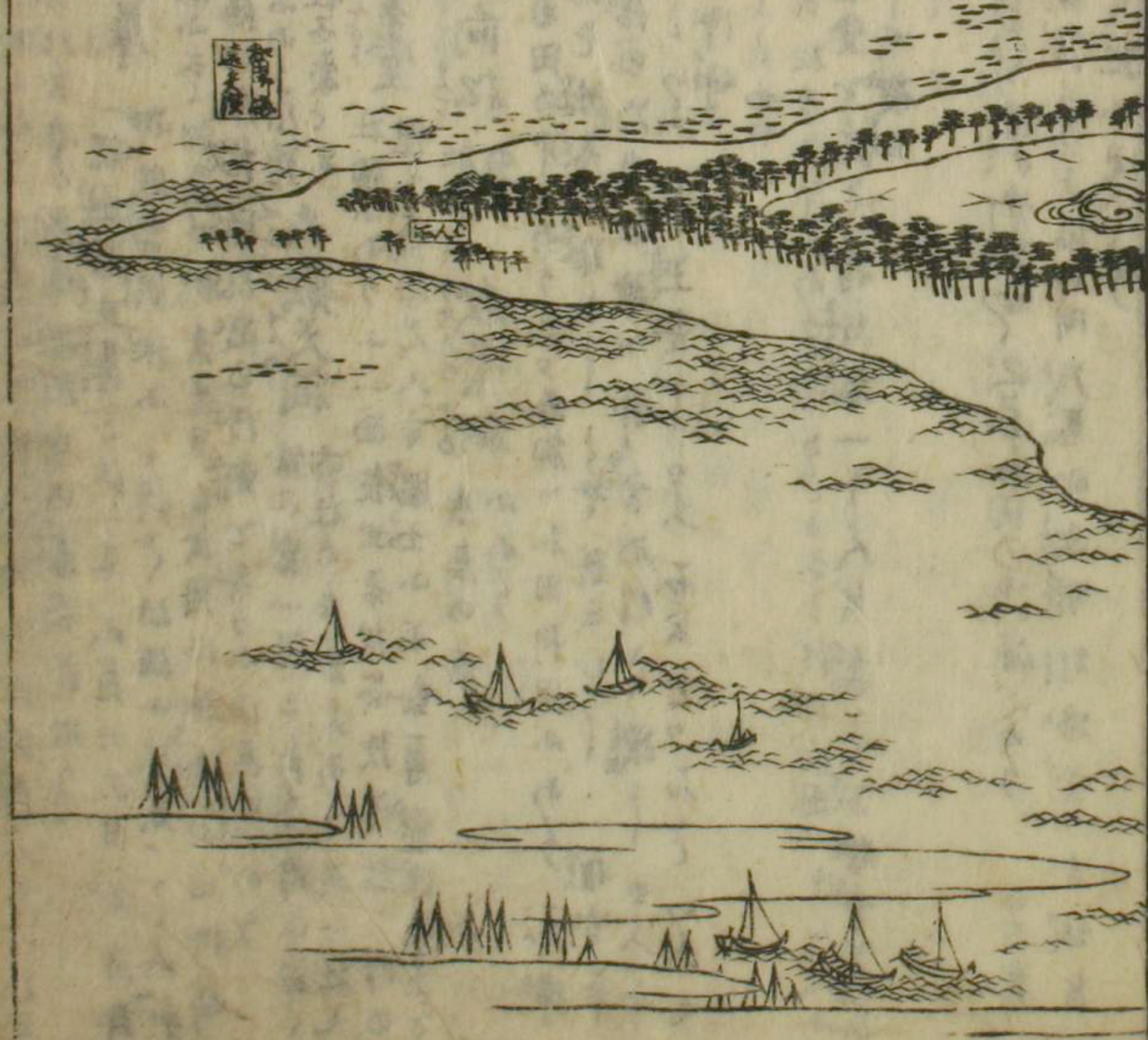
和田社

和田清寄

遠矢墮



新古今
旅夜
さかり波夜
ととたれを
うさ白雲の
やう
あつれを
ほろり然



和田神祠

和田の市崎小のり南溪河中の生土神と伝説あり五月廿二日天台傍にあり

系神天中主尊

一説國常立尊萬法二年八月廿三日武庫郡同松止りあり

輕子祠

本社の大ふあり山所在財天祠六社の各財天あり其一社のみか平相園

和田三石

和田社の東田の沖小あり三石祠といふ和田新田小あり

燈燭堂古蹟

和田の松原の中ふあり持統御一十人成集り

和田小松原

東へ法庫の町あり西へ東尾村あり一面の松原あり

内裏蹟

和田の中ふあり今小松原の東地あり

延喜山

和田松原の中ふあり延喜山といふ

神馬跡

和田の地ふあり神功皇后の御馬の跡あり

和田濟

和田の沖小あり

和田三石

和田社の東田の沖小あり三石祠といふ

燈燭堂古蹟

和田の松原の中ふあり持統御一十人成集り

和田小松原

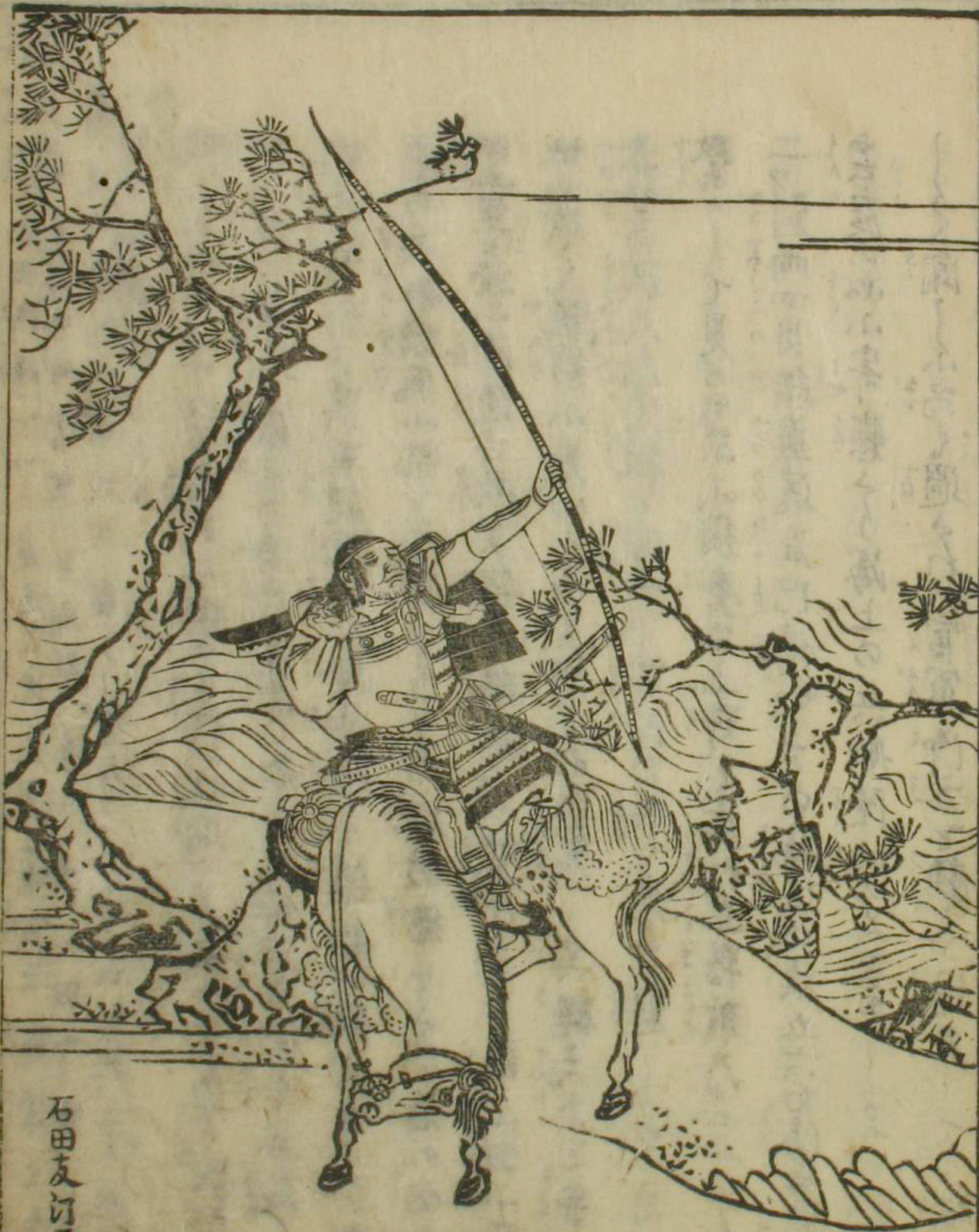
東へ法庫の町あり西へ東尾村あり一面の松原あり

内裏蹟

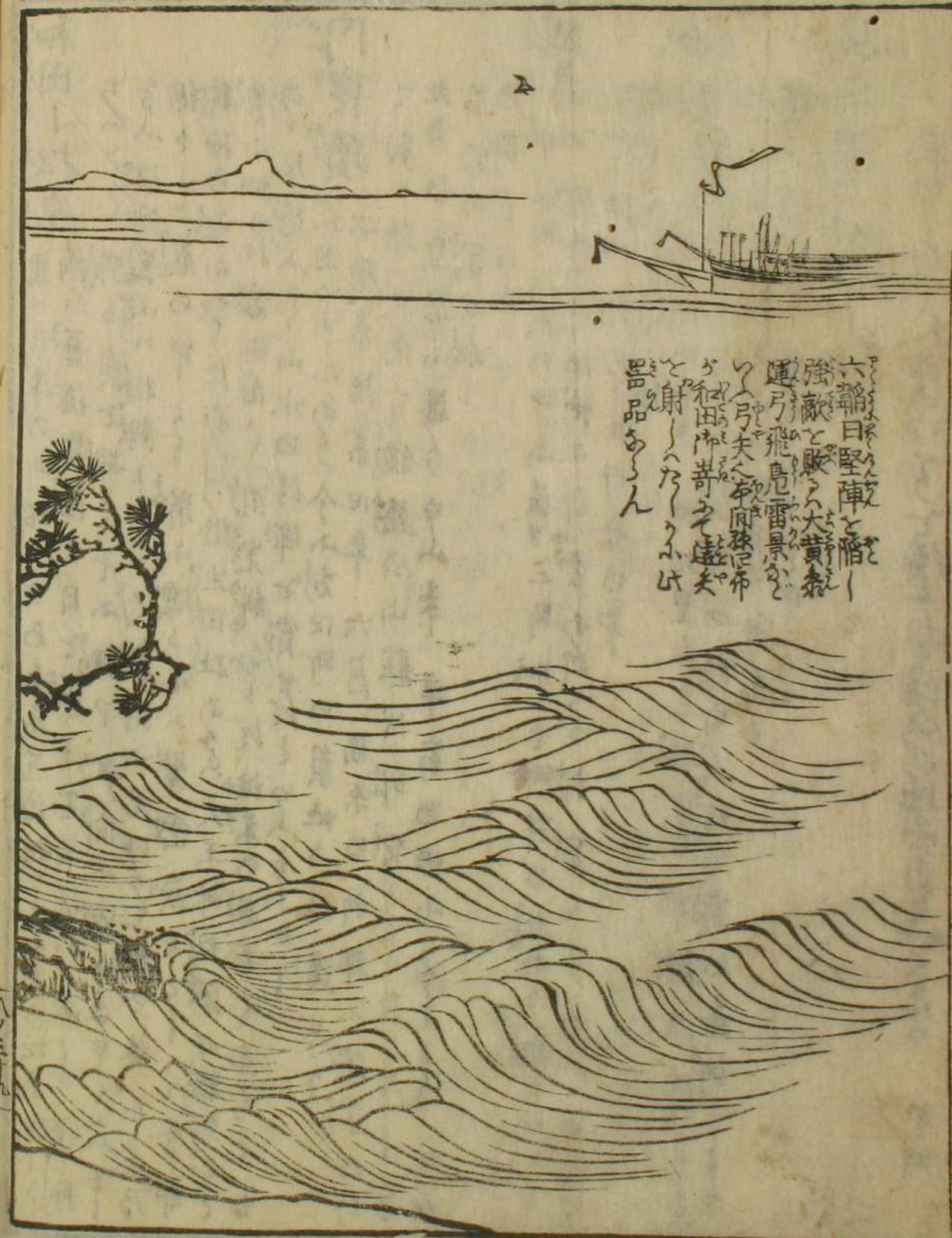
和田の中ふあり今小松原の東地あり

延喜山

和田松原の中ふあり延喜山といふ



石田友河画



六朝日堅陣と階
強敵と戦ふ大貴族
運弓飛鳥雷景を
引く夫々本陣に布
石田友河の遠夫
と射へたりふけ
器品あふん

遠矢蹟

和
上
田
洛
の
時
濟とよ
濟とよ

建武三年五月尊氏之
官軍平南孫氏希範氏和田
時義上

尊氏の軍船 遠矢は射く譽はうりしふ所く今ふ

太平記曰

明^{あきら}れ五月二十五日辰^{うし}刻^{とき}小^こ湊^{みなと}の處^{ところ}に晴^{はる}間^まより出^いる^でる^る方^{かた}船^{ふね}あり

漢小瑤る海人々淡路の追戸と渡る船のと海辺の眺を云々録く

塩
海
邊
凡
口
口
口
取
梶
面
梶
小
搔
梳
搔
く
鱸
舳
小
旗
成
立
く
改

萬の兵船順風小航とぞ擧ぐり々々雲波動々々々海の面十

四里ちほ
五里ごり

[illegible]

城に居る中景の夏は山もあけず霧も
 呉魏天下を争ふ

赤壁の戦は元帝朝を滅せし、美河の兵も是より過ぐすに因りて

繁うて見るまふ又須磨の上野と鹿松正野弑乃方より

二ツ引兩月結直遠左巴倚こちひのこちひ痛遠こちひの旗はた立たて流ながる連つて

雲霞の如く寄懸る海上の兵船陸地の又努思より又震く

くく 聞きこふ 當あたも 過すたへ 官軍くわんぐん 方かたを 顧くろみ 屈くつして 覺おけ

うきを
めえ
くすをきうが
うき
うき

名それとも義貞歟とも樟正成り大歟なりと歟と小歟成り

悔ざる世祖光武の心根と寫して得たる勇者多れば少も機と失ふ

氣色無しを先和田の津崎の小松原へ歩ゆく閑ふふをそゝる

乃一方之脇登有漢門佐義助と大將とと末々の一族二十二人

其勢六千餘騎經鳴沙こゝろ扣ひ一い方之大館おほやう左馬助氏明と大將

〽〽〽
 相順（一）一族十六人其勢二千餘騎
 〽〽〽
 燈壇堂（二）の南に

一
 方之南判店云我態也乃勢成文々々七而解新

[illegible]

海川のまがきをたぐ
 陸路のるにたへる
 水氣のまがきをたぐ
 陸路のるにたへる

家おとを諸將の命を以て其勢之屬五千騎和田降城す

帷幕を引く盤らる去程小海上の船具帳と下りく磯迄く

溝寄とて陸路の勢も旗と進めく相迎あを成ふる兩陣互ふ

政寄て先澳の船より大鼓を鳴し時の聲を揚ぎて陸路の擧

五十萬騎請取之。一日不聲。又令其聲。三度畢。乃官軍。

又五萬餘騎、旗の端を鳴し、胡蝶を敲く時、彼は欲所方乃
時、聲南へ淡路繪巻崎、鳴戸の奥を、播磨路、明石の浦、東へ
移津生田、東四方二百餘里、響渡く、苟く大維も断て、落岬
壯も傾く計、去後、新田足利相挑く、いづれ我より勝ふ、本間
孫に希重氏、美尾なる馬のなく、逞しく、紅下濃の鎧着て、只
一騎、和田清勝の波步、除ふ馬歩、寄く、奥ある如く、向く、大音聲
を舉ぐ、申々、侍の將軍、筑策より上洛あり、定て、鞆尾端の傾城
共多く、召具され候らん、其爲ふ、跡し、侍者、一ツ推て進せ候らん、若く
侍待し、之を候ふ上差の流鏑矢を、援く羽の少く、度り、うら、ハ、鞍れ
希勝ふ、當て、つた、車、二所、藤の弓、れ、握太あり、ふ、取、副小、ね、法、馬を
お、寄く、浪の上あり、船の己が影、う、魚と、致、驚く、花さ、る、程と、を
待、う、う、方、款、は、足、分、ん、く、射、放、た、う、ん、の、希、代、の、笑、哉、と、目、を
放、う、後、侍、方、は、足、分、ん、く、射、放、た、う、ん、の、時、ふ、取、く、の、名、譽、哉、や

機と攻て、せ、守、る、遙、く、高、飛、舉、つ、る、鵜、浪、の、上、ふ、落、さ、り、く、二、人
計、ある、魚、と、主人、の、を、成、鯛、と、奥、の、方、一、花、り、う、る、を、成、本、間、小、松
原、の中、より、馬、成、懸、出、し、追、搦、ふ、成、く、龜、鳥、を、射、う、り、け、は
態、と、生、か、ず、射、て、落、さん、と、行、ぬ、が、ひ、と、射、切、く、直、中、と、は、射、ざ、り
う、の、間、鏑、の、響、き、て、大、内、分、が、舟、の、帆、柱、ふ、立、鵜、へ、魚、と、鯛、か、が、う、大、友、が
舟、の、形、の、上、へ、落、さ、り、け、射、を、誰、と、知、ひ、ど、も、欲、船、七、千、餘、艘
み、の、船、を、踏、く、立、雙、び、侍、方、の、官、軍、五、萬、餘、騎、へ、江、ふ、馬、成、加、へ、く
ア、射、う、り、や、く、と、感、じ、る、聲、大、地、成、響、く、と、侍、を、得、じ、將軍、これ
と、見、給、て、欲、我、弓、の、程、と、見、せ、ん、と、い、ふ、を、射、は、る、が、い、方、の、船、の中、へ
名、の、落、さ、る、侍、方、の、右、車、と、覺、ゆ、る、何、様、射、の、名、字、と、聞、や
と、侍、れ、は、る、小、平、何、七、希、船、の、舳、ふ、立、出、く、類、少、く、見、所、有
て、も、遊、され、つ、る、者、哉、と、そ、も、希、名、字、と、何、と、申、候、や、ん、き、う、ぬ
は、一、や、と、向、う、り、う、る、本、間、弓、杖、ふ、と、づ、く、其、身、人、あ、る、者

あゝ候へば名を申とも誰う所存知いぬと但弓矢と取て坂東
八箇國の兵れ中あひあひ知る者も所存いらい夫れ名をたは
所統之と云ふ二人張ふ十五束三伏ゆるくと引渡一ニッ引兩
の旗立る船は格しく遠方め射うけふ其夫六町餘
越く將軍の船は雙々佐々木筑前守が船は菟中過通り
至形小素る兵の鎧は軍指小裏はせくせと立よりあは
將軍は矢と取寄せ見給ふ相模國住人本向孫四郎
重氏と小刀の先めく書うけは諸人此夫と取傳へ見く穴
懼如ゆる不運の者け夫先廻く死あんどんを兼く曾
とぞ冷しなる

真里

まの 真里のあ尻池村

若うたれ真里の里人うちむとくちる苗や多代の穀

清信

真浦

まの 尻池村のあ尻の真里入はまの入瀬

後後

つともしう被成たのてまの浦は菅の笠と捨きふ

人九

真池

まの 尻池村のあ尻

万葉

はの池は小菅と笠ふぬて人の化名は山とりの

全

ま本

と知れそさうさのわのわの氷をさるまの池水

安清

日

まの池の橋つひりらうやまのまの橋とまの

内大

日

タこれのはの池水とるうてようれああわれ村

三条入道

新藻川

尻池村のあ尻の水源縣城の山中より流く

真聖橋

尻池村のあ尻方

後拾

さてもあやうそさのまの橋といひまのつぎ橋

桐子

ま本

あまやんそさのちみ成りてさふふはのつぎ

紀後

句梅

尻池村の中底家の側あり菅の籠案へ所下向の時和田所修の所を

行枝小脇やかういゝんめれ

文考

ちう梅やゆめのまふとまひる

蕪村

梅屋名所圖會

